

1977 (TOHO). Isl. Oshima: T. Makino, 1920 (MAK). Y. Jotani 3004, Oct. 1932 (TUA). Y. Jotani 121012, Sept. 1935 (TNS). M. Mizushima, Sept. 1950 (TI). N. Sahashi nos. 7429-7431, Jan. 1974 (TOHO); 7433-7437, 7461 (367039 in TNS), Dec. 1974 (TOHO); 7630-7633, Feb. 1976 (TOHO); 7760-7764, Jan. 1977 (TOHO); 7935-7937, Jan. 1979 (TOHO); 7938-7944; Mar. 1979 (TOHO).

Common or rare on sandy soil in shades or on forest floor of *Camellia japonica*.
(To be continued)

□神田 淳: 写真集 野生ランのかお 173 pp. 1979. 誠文堂新光社, 東京. ¥2,800. 本誌で既に紹介された大型本日本の野生ランの著者による。75図版の中, 原色62葉, 他は白黒。1葉を除いてすべて花の接写であって, ランの花を素材とした造型美をねらっているようである。この種の出版物が, 書店の趣味園芸の部にうず高く積み上げられているのを見ると, 日本の植物愛好家のレベルもここまで来たかと, いささかの感慨がある。前著と比較すると似た写真の拡大があるのに気が付くが, 全く同じものはない。聞く所によると, 1個体または個体群に関して, 数時間の努力が払われている由。著者の経済的犠牲なしにはよいものが出版されない日本の出版事情は考えさせられる。接写ばかりであるので, 読者はランの種の全貌をつかむことはできないであろう。ある種のランは稀少である故に, この写真は植物学者にもよい研究材料を提供できるかも知れない。各々の写真のデータは, 日時および府県単位のデータしか与えられていない。小笠原島のものも, 東京都となっているたぐいである。前著では生育地の高度が記してあった。この高度データすらも, 濫獲者を利したという。恐るべきことである。写真であるから, その個体の真景を写したものに違いがないが, ある種では, その花型が平均的なものからずれている心配もある。例えばコウロギラン。学名は誰の責任によったのか, 記していない。これは少し不満。(津山 尚)

□徳川宗賢(編): 日本の方言地図 (中公新書 533) 250 pp. 1979. 中央公論社, 東京. ¥420. 文部省国立国語研究所が行なった全国的な言語調査の成果が『日本語地図』(全6巻, 1966~74)として出版されている。この調査に関与された方々のうちの5氏が, その300面の地図の中から50面を選んで略図化し, 解説した書物である。単に日本全国の方言状況を手軽に見渡せるというだけでなく, 方言の分布, 物とことば, ことばの誕生と変化, 文献国語史と方言, 標準語の地理的背景, などの問題点について多くの示唆を得ることができる。植物に関係のあることばとしては, カボチャ, サツマイモ, ジャガイモ, イモの意味, トウモロコシ, とげ, トウガラシ, ウルチ, ドクダミがある。(伊藤 洋)